

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和元年(2019)/11.30 発行 No. 172

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・学術研修会
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く!～輝く石川のキラ星～

- ・委員会報告
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿



〔巻頭言〕

『地域完結型医療の推進で求められる病院薬剤師像と当院の取り組み』

石川県病院薬剤師会理事 石田 外樹 …… 1
小松市民病院 薬剤科科长

〔学術研修会〕

学術研修委員会

令和元年度 第1回(通算169回)学術研修会報告

浅ノ川総合病院 藤本 直也 …… 3

発表者報告

スルピリド服用患者におけるパーキンソニズム発現状況調査

浅ノ川総合病院 藤田小貴子 …… 5

IFIS(術中虹彩緊張低下症候群)のリスク対策についての取り組み

公立松任石川中央病院 田村 健吾 …… 7

ゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法による間質性肺炎のリスク因子に関する検討

金沢大学附属病院 高廣理佳子 …… 9

町立富来病院における骨粗鬆症治療薬の適正使用に関する取り組み

町立富来病院、金沢大学附属病院 板井 進悟 …… 11

当院における高カロリー輸液の調整に関して

河北中央病院 谷山 徹 …… 14

当院における眠剤の病棟常備薬変更による転倒転落発生状況の変化

石川県済生会金沢病院 青木 理恵 …… 16

当院薬剤部と院外薬局の比較 ～疑義照会理由の視点から～

金沢医科大学病院 高多 暲治 …… 18

インシデント分析によるピッキングミス対策の取り組み

石川県立中央病院 山田喜美子 …… 20

金沢医療センターにおける調剤過誤の現状と取り組みの結果

金沢医療センター 竹川 祐以 …… 22

整形外科の持参薬に関連するリスク軽減に係る取り組み

石川県立中央病院 安村 郁香 …… 24

ASTとの連携により動物咬傷後の抗菌薬適正使用に貢献した症例

金沢市立病院 吉田 美美 …… 26

〔薬局の窓口から(76)〕

「医薬品副作用被害救済制度活用に関する取り組み」

金沢大学附属病院 板井 進悟、川上 貴裕 …… 28

〔エキスパートに聞く!～輝く石川のキラ星～(14)〕

「妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師」

石川県立中央病院 米澤 美和 …… 30

〔委員会報告〕

総務委員会

令和元年度第1回石川県病院薬剤師会ボウリング大会報告

金沢医科大学病院 窪田 充泰 …… 33

精神科病院委員会

精神科臨床薬学研究会北陸ブロック2019年度上期講演会報告

～“令和最初の”抗精神病薬を考える～

金沢大学附属病院 坪内 清貴 …… 36

がん治療委員会

第34回がん薬物療法セミナー報告

金沢赤十字病院 熊谷 要 …… 38

教育研修委員会

第31回実務者研修会報告

金沢大学附属病院 吉田 幸司 …… 40

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …… 42

〔南船北馬〕 …… 44

〔寄稿〕

「古寺との結縁-49」六波羅蜜寺・青蓮院 ～京で初もうで(前) 東山周辺～

院瀬見義弘 …… 45

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

表紙写真 撮影

：熊走 尚志

白米千枚田のイルミネーション

あぜのきらめきとして10月19日から3月15日まで25,000個のペットボトルが夕暮れから点灯されます。

時間によって赤から黄色そして緑と変化して、幻想的な雰囲気にもまれ時の経つのを忘れさせられます。

撮影は2月中頃だったので、日没とともに海から吹く風の冷たさが日本海の冬の厳しさを身にしみて感じながらの時間でした。

地域完結型医療の推進で求められる 病院薬剤師像と当院の取り組み

小松市民病院 薬剤科 科長 石田 外 樹

小松市民病院の石田外樹です。この度、ご指名により僭越ではありますが御挨拶申し上げます。

今年度、政府は約10年ぶりにバイオ戦略として重点領域を9つに絞った「バイオ戦略2019」を取りまとめ、2030年まで重点的に支援することを示しています。医療に関係したところでは、発酵産業の技術、品質管理を応用としたバイオ医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療の関連産業と、もう一つ医療に依存しない健康的な生活として、生活改善ヘルスケアや機能性食品、デジタルヘルスケアなども項目として挙げており、特に強調されている点は、バイオとデジタルの融合となっています。また今年度は、薬機法の改正も行われるに当たり、薬剤師法第25条の2が追記されるなど、時代はいよいよ平成から令和へと、新たな時代に入ってきたように思います。

具体的には、医薬分業の本来の目的を達成するために、薬剤師・薬局が患者の服薬状況などを一元的・継続的に把握することが不可欠であることから患者にかかりつけ薬局を選択してもらうことが極めて重要であるとされており、石川県でも2017年、2018年に国の採択を受け、薬局の健康サポート機能の強化、かかりつけ薬局の普及啓発を行う事業が実施されてきました。今年度は、更に「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」などから薬剤師に以下の義務が生じることになりました。

- 1 調剤時に限らず、必要に応じて患者の薬剤の使用状況の把握や服薬指導を行う義務
- 2 患者の薬剤使用に関する情報を医療機関に提供する努力義務

そこで今回、石川県健康福祉部薬事衛生課から「お薬服用フォローアップ」のモデル事業の依頼があり、当薬剤科としては、快く引き受ける事と致しました。

近隣の保険薬局と協議した結果、対象は抗がん剤を服用中の患者で、方法としては毎週1回程度、保険薬局が、患者の状態（副作用の程度など）や服薬状況の確認を行い、またその結果を当院のがん担当薬剤師にiPadを用いて情報を提供します。一方当院の薬剤師は、その情報を主治医に緊急性があれば直接報告し、また緊急性がなければ電子カルテに記録することで、服用中の患者の状態を時系列で報告で

きるように致しました。当薬剤科としては、決して収益の向上には繋がりませんが、双方向での連携が可能となり、患者に対しては適切な情報提供と副作用の早期発見、また主治医に対しては、支持療法の提案、次の受診日までの患者状態の把握などができることから、より正確な診断と診察時間の短縮などに寄与できるのではないかと考えています。今後、連携加算なるものも病院側で算定できるようになればと希望しているところです。またこの事業は、2020年3月に石川県薬剤師会及び石川県健康福祉部薬事衛生課に報告予定となっております。

ところで、当薬剤科ではそれぞれが各種認定や専門を志しており、各種疾患の指導、教室にも積極的に参加、日々自己研鑽に邁進しています。特に排尿機能障害の分野に関しては、泌尿器科のみならず、多剤併用による薬物の影響や感染による影響も考えられることから、排尿自立指導料の算定が可能になったと同時に薬剤師も排尿ケアチームに参画し、薬物治療の処方提案、助言を行っているところです。特にこの包括的排尿ケアを支える薬剤師の活動報告においては、高い評価を頂き、第30回日本老年泌尿器科学会で学会賞を受賞、今年度は第26回日本排尿機能学会のシンポジウム⑤「多職種で広げる排尿機能障害診療の視野」部門でシンポジストを行い、更には東京大学医学部健康総合科学科主催のコンチネンストウキョー2019年度症例検討会にも参加を予定している状況です。今後、この排尿自立指導料算定の中で、薬剤師による加算が取得できないものかと希望しております。

また当院は、地域社会における基幹病院でもありますので、それぞれの分野においてスペシャリスタ的な薬剤師、専門医とディスカッションのできるような薬剤師も求められているのではないかと考えております。一方で保険薬局においては、一人で様々な患者と関わりを持つ必要があることから、ジェネラリスト的な薬剤師が求められることが多いのではないかと想像しております。

今後は、抗がん剤治療を受けている患者だけではなく、糖尿病患者でインスリンを調節している患者、緩和ケアでPCAポンプを使用している患者、排尿障害で薬物相互作用が強く疑われる患者など、よりハイリスクな患者と薬局薬剤師が継続的に係わっていくことになると思います。そのような時、病院側からもそれぞれの領域のスペシャリスタの薬剤師が、薬物治療の専門家として主治医と情報共有しながら、保険薬局にサポートしていく体制が構築できれば、今後進むであろう過疎化と医師不足の中、薬剤師として地域社会の医療の質と公衆衛生の向上に寄与できるのではないかと考えています。

当薬剤科では、常に向上心を持って取り組んでおりますので、今後ともよろしくご厚意申し上げます。